

マレーシア・シンガポール研修（重点枠）

日時：平成27年1月4日（日）～1月15日（木） 10泊12日

研修先：マレーシア・サバ大学

メシラウ村の小学校

メシラウ自然公園

ポーリン温泉公園

キナバル植物園

クリアス川下流域の湿地帯

シンガポール大学メカノバイオロジー研究所

スンゲイブロー自然保護区

Sengkang Floating Wetland

Marina Barrage

概略：1月4日 出発前事前研修

1月5日 新千歳空港出発、羽田経由でシンガポール・チャンギ国際空港到着

1月6日 スンゲイブロー自然保護区にて、マングローブ林及び渡り鳥の観察・調査

Sengkang Floating Wetland にて、海洋植物・水の調査

1月7日 シンガポール大学メカノバイオロジー研究所訪問（施設見学、研究室訪問、訪問生徒プレゼンテーション、講義、研究者とラウンドディスカッション）

Marina Barrage にて、ダム施設の見学とシンガポールの水事情に関する研修

1月8日 シンガポール・チャンギ国際空港出発、コタキナバル国際空港到着

サバ大学にて熱帯雨林に関する研修①（日本高校生のプレゼンテーション、標本庫見学・講義①「ボルネオ概要」）

メシラウ村へ移動、ホームステイ

1月9日 メシラウ村の小学校で、日本人高校生が現地小学生に対してサイエンス教室を実施

メシラウ自然公園で山地林の植生観察、ホームステイ

1月10日 ポーリン温泉公園にて、低地熱帯林の植生と林冠観察、蝶博物館での昆虫の観察、水のサンプリング調査、コタキナバルへ移動

1月11日 コタキナバル湿地センターにて、マングローブ林の生態系観察と講義②「草の根レベルの自然保護プロジェクト」

クリアス川下流域にて、湿地帯の生態系観察（テングザル、ホタルなど）

1月12日 サバ大学にて熱帯雨林に関する研修②（植林、昆虫採集・昆虫標本作製、講義③「サバの環境問題」）、ホームステイ

1月13日 サバ大学にて熱帯雨林に関する研修③（現地高校生と合同研修、水の分析と考察（ディスカッション）、講義④「サバの土壌と植生について」、講義⑤「政策レベルの自然保護プロジェクト」）、ホームステイ

1月14日 サバ大学にて熱帯雨林に関する研修④（現地高校生と合同研修、まとめのプレゼン準備と発表、サバと日本の生物多様性保全に関する議論

コタキナバル国際空港へ移動、クアラルンプール国際空港着、出発

1月15日 成田、羽田経由で新千歳空港到着

参加者：生徒12名（道立高等学校生徒8名、本校生徒4名）

シンガポール



マレーシア



生徒の感想：

- ・環境問題について考え環境問題を解決する策を考えようと思い、この研修に参加しましたが、環境問題には自分の今まで知らなかった様々な問題があることを知り、問題を解決するどころか、むしろ解決しなければならない問題が増えました、だけど、自然と触れ合うことや様々な講義を受けることによって、現地の人の文化や土壌のことなど様々なことを知り、より広い視点から問題を考えることができるようになりました。また、一緒に行った仲間から影響を受け、自分の知りたいことを質問するという力が、すごくついたと思いました。質問することによって、より深い理解が得られることも学びました。オールセインツの高校生と議論した時に、自分一人では伝わらないことも協力すれば伝わり、協力することの重要性を学びました。オールセインツの高校生をみて、プレゼンをするときにどう自分に注目を集めるかを学ぶことが出来ました。多民族国家での英語の重要性、深い議論をするときの英語の重要性を学び、もっと英語を頑張らなければならないと思いました。